

# 2018年度(平成31年3月期) 第3四半期決算説明資料

IHI

2019年2月7日

株式会社 IHI



# 目次

## 1. 2018年度第3四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	9
特別損益.....	10
連結貸借対照表.....	11
補足資料.....	12

## 2. 2018年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	16
報告セグメント別内訳.....	17

## 3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	21
社会基盤・海洋.....	23
産業システム・汎用機械.....	25
航空・宇宙・防衛.....	27

<参考資料>.....	29
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

# 1. 2018年度第3四半期 連結決算

# 1. 2018年度第3四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2018年度3Q 売上平均レート(米ドル) 111.39円

(億円)

	'17年度3Q	'18年度3Q	増減
受注高	9,775	9,345	▲ 430
売上高	11,313	10,472	▲ 840
営業利益	515	566	51
経常利益	296	575	279
税金等調整前 四半期純利益	282	612	329
税金費用	▲ 149	▲ 231	▲ 81
親会社株主に帰属する 四半期純利益	98	341	243

'18年度3Qには、過年度法人税等として▲43億円が含まれています。

2017年度において、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、該当する海外連結子会社の会計期間が12か月となっています。この影響により、前期の売上高で579億円、営業利益で14億円がそれぞれ増加しています。

# 1. 2018年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'17年度3Q	'18年度3Q	増減	'17年度末	'18年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,651	2,167	▲ 484	6,485	5,701	▲ 784
社会基盤・海洋	1,045	832	▲ 213	2,061	1,969	▲ 91
産業システム・汎用機械	3,526	3,512	▲ 13	1,610	1,984	374
航空・宇宙・防衛	2,358	2,549	190	5,330	4,766	▲ 563
報告セグメント計	9,582	9,061	▲ 520	15,487	14,422	▲ 1,064
その他	554	616	62	184	275	91
調整額	▲ 361	▲ 333	27	-	-	-
合計	9,775	9,345	▲ 430	15,671	14,697	▲ 973

海外受注高・受注残高	5,218	3,859	▲ 1,359	6,254	4,872	▲ 1,382
海外受注高・受注残高比率	53%	41%	▲ 12%	40%	33%	▲ 7%

# 1. 2018年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'17年度3Q	'18年度3Q	増減	'17年度3Q	'18年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	3,518	2,716	▲ 802	▲ 107	40	147
社会基盤・海洋	1,046	949	▲ 97	84	76	▲ 8
産業システム・汎用機械	3,314	3,141	▲ 173	109	132	23
航空・宇宙・防衛	3,265	3,493	227	467	358	▲ 108
報告セグメント計	11,146	10,300	▲ 846	554	608	54
その他	463	471	8	8	11	2
調整額	▲ 296	▲ 299	▲ 3	▲ 47	▲ 52	▲ 4
合計	11,313	10,472	▲ 840	515	566	51

海外売上高	6,339	5,476	▲ 863
海外売上高比率	56%	52%	▲ 4%

前期に一部の海外連結子会社の決算日を変更したことに伴うセグメント別の影響については、決算短信のセグメント情報を参照ください。

# 1. 2018年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	報告期間統一の影響	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 10	127	1	28	1	147
社会基盤・海洋		▲ 5	1	▲ 4		▲ 8
産業システム・汎用機械	23	21		▲ 5	▲ 16	23
航空・宇宙・防衛	▲ 145	48	▲ 6	▲ 5		▲ 108
報告セグメント計	▲ 132	191	▲ 4	14	▲ 15	54
その他	4	▲ 2		▲ 1	1	2
調整額		3		▲ 8		▲ 4
合計	▲ 128	192	▲ 4	5	▲ 14	51

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

## 北米 プロセスプラント案件の状況(第3四半期)について

工事の進捗としては、プラント付帯設備範囲の据付はほぼ完了し、試運転への移行を進めています。その中で、以下の事態に伴う追加費用を計上しました。

- 据付の最終段階での調整項目対応が予定通りに進まず、試運転へのスムーズな移行ができていない(工程遅延に伴う追加据付費が増加)
- 据付済の外注品の一部に製作時の不具合があることが現地で判明し、手直しを行なった(工程遅延に伴う追加据付費が増加)
- No.1トレインの試運転が進行する中で、試運転の1トレインあたりに要する作業量が当初の想定より大きいことが判明した(No.10トレイン分までの追加試運転費を織り込み)

事業会社であるIHI E&Cでは、新規の大型受注は手控え、引き続き本プロジェクトへリソースを集中しています。

2018年度末に予定されているNo.1トレイン及びプラント付帯設備の引渡しへ向けて、据付から試運転へのスムーズな移行と調整項目への対応に注力したプロジェクトの進捗管理を引き続き実施していきます。



# 1. 2018年度第3四半期 連結決算

## 営業外損益



(億円)

	'17年度3Q	'18年度3Q	増減	備考
金融収支	▲ 3	▲ 6	▲ 3	
持分法による投資損益	▲ 110	67	178	
為替差損益	▲ 1	1	2	
その他	▲ 103	▲ 53	50	2017年度3Q: 民間航空エンジン契約調整負担金 ▲64 契約納期遅延に係る費用 ▲45
営業外損益	▲ 219	9	228	

期末日レートの変動(米ドル) '17年度3Q +0.81円 (期首112.19円→3Q末113.00円)  
'18年度3Q +4.76円 (期首106.24円→3Q末111.00円)

# 1. 2018年度第3四半期 連結決算 特別損益

(億円)

	'17年度3Q	'18年度3Q	増減	備考
関係会社株式売却益	—	42	42	小型原動機事業に係る事業会社の持分売却
事業譲渡益	15	11	▲ 4	2018年度3Q: 小型原動機事業
特別利益	15	53	37	
減損損失	—	▲ 16	▲ 16	小型原動機事業に係る固定資産の減損
商業運転中のボイラ設備に係る 和解関連費用	▲ 29	—	29	
特別損失	▲ 29	▲ 16	13	
特別損益	▲ 13	37	50	

# 1. 2018年度第3四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'17年度末	'18年度3Q末	増減
<b>資産合計(※1)</b>	<b>16,334</b>	<b>17,171</b>	<b>836</b>
(うち 売上債権)	(4,003)	(3,693)	(▲ 310)
(うち 棚卸資産)	(4,285)	(4,955)	(670)
(うち 投資有価証券)	(992)	(1,209)	(216)
<b>負債合計(※1)</b>	<b>12,832</b>	<b>13,406</b>	<b>574</b>
(うち 仕入債務)	(3,049)	(2,784)	(▲ 264)
(うち 前受金)	(1,778)	(1,614)	(▲ 163)
(うち 有利子負債残高)	(3,222)	(4,391)	(1,168)
<b>純資産合計</b>	<b>3,502</b>	<b>3,764</b>	<b>262</b>
株主資本	3,132	3,376	243
その他の包括利益累計額	113	87	▲ 26
非支配株主持分等	256	301	45
<b>負債・純資産合計(※1)</b>	<b>16,334</b>	<b>17,171</b>	<b>836</b>
<b>D/Eレシオ(※2)</b>	<b>0.92倍</b>	<b>1.17倍</b>	<b>0.25倍</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>19.9%</b>	<b>20.2%</b>	<b>0.3%</b>

有利子負債残高には、リース債務残高('17年度末:182億円, '18年度3Q末:157億円)を含んでいます。

(※1) 税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴い、'17年度末の連結貸借対照表の組替を実施しています。

(※2) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'17年度3Q	'18年度3Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	353	▲ 660	▲ 1,013
投資キャッシュ・フロー	▲ 243	▲ 616	▲ 373
フリー・キャッシュ・フロー	110	▲ 1,277	▲ 1,387
財務キャッシュ・フロー	▲ 186	1,046	1,233

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	'17年度3Q	'18年度3Q
研究開発費	242	237
設備投資額	389	490
減価償却費	329	315

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

(3) 海外売上高

(億円)

	'17年度3Q	'18年度3Q
ア ジ ア	1,180	1,120
中 国	823	908
北 米	2,860	2,501
中 南 米	184	95
欧 州	1,034	756
そ の 他	256	93
合 計	6,339	5,476
海外売上高比率	56%	52%

## 2. 2018年度 連結業績見通し

## 2. 2018年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート      米ドル    **105円**(前回見通し公表時 **105円**)  
 (第4四半期)        ユーロ    **130円**(前回見通し公表時 **130円**)

(億円)

	前回見通し※ ('18年度通期) A	今回見通し ('18年度通期) B	前期実績 ('17年度通期)	増減 B-A
受注高	<b>15,000</b>	<b>14,500</b>	<b>15,050</b>	<b>▲ 500</b>
売上高	<b>15,000</b>	<b>15,100</b>	<b>15,903</b>	<b>100</b>
営業利益	<b>850</b>	<b>870</b>	<b>722</b>	<b>20</b>
経常利益	<b>650</b>	<b>710</b>	<b>214</b>	<b>60</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>320</b>	<b>420</b>	<b>82</b>	<b>100</b>

※前回見通しは、2018年11月1日公表の業績予想数値です。  
 (2018年5月9日公表の当初見通しから変動ありません。)

(参考)為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)

米ドル    2億円      ユーロ    0億円



## 2. 2018年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高 通期見通し)

(億円)

	前回見通し (’18年度通期)	今回見通し (’18年度通期)	増 減
資源・エネルギー・環境	3,800	3,100	▲ 700
社会基盤・海洋	1,400	1,300	▲ 100
産業システム・汎用機械	4,700	4,800	100
航空・宇宙・防衛	4,900	5,000	100
報告セグメント計	14,800	14,200	▲ 600
そ の 他	700	700	0
調 整 額	▲ 500	▲ 400	100
合 計	15,000	14,500	▲ 500

## 2. 2018年度 連結業績見通し

### 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益 通期見通し)



(億円)

	前回見通し (’18年度通期)		今回見通し (’18年度通期)		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	3,900	200	3,700	90	▲ 200	▲ 110
社会基盤・海洋	1,500	120	1,500	130	0	10
産業システム・汎用機械	4,400	220	4,500	220	100	0
航空・宇宙・防衛	5,000	440	5,100	460	100	20
報告セグメント計	14,800	980	14,800	900	0	▲ 80
そ の 他	700	30	700	30	0	0
調 整 額	▲ 500	▲ 160	▲ 400	▲ 60	100	100
合 計	15,000	850	15,100	870	100	20

## 2. 2018年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(営業利益の増減要因)

<2018年5月9日公表の当初見通しからの増減要因>

(億円)

	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変 動	合 計
資源・エネルギー・環境	▲ 30	▲ 80			▲ 110
社会基盤・海洋		10			10
産業システム・汎用機械					0
航空・宇宙・防衛		▲ 30	50		20
報告セグメント計	▲ 30	▲ 100	50	0	▲ 80
そ の 他					0
調 整 額		▲ 10 (※) 110			100
合 計	▲ 30	0	50	0	20

(※)業績変動リスクに備えて計上したバッファ110億円を全額取り崩しています。

### 3. 報告セグメント別の概況

### 3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

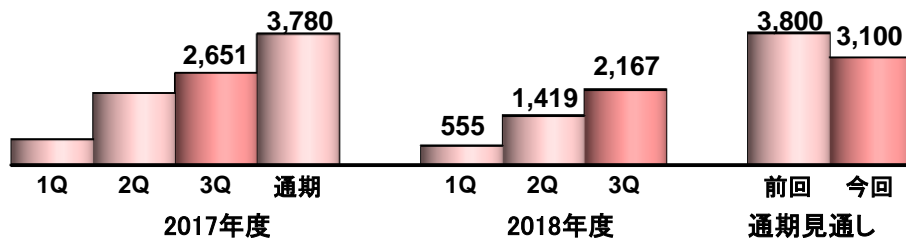
(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 陸用原動機プラント, 中型原動機, 大型原動機, プロセスプラント,  
原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

(2018年5月9日公表の当初見通しから変動ありません。)

#### 受注高



#### <対前年同期 増減内訳>

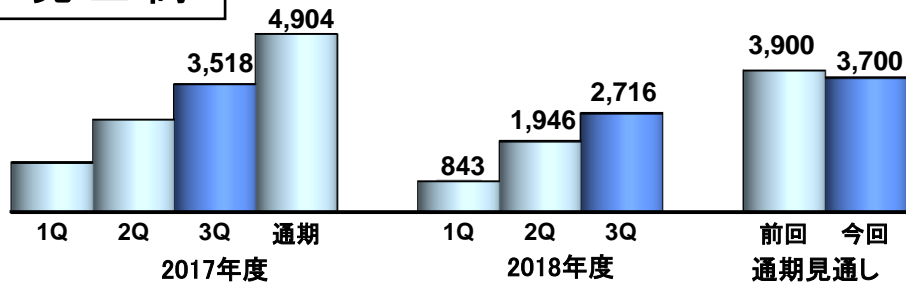
##### 【受注高】

ボイラで前期に海外の大型案件を受注した反動により、減少しました。

##### 【売上高】

前期の報告期間統一の影響のほか、プロセスプラントにおいて前期に大型プロジェクトが進捗した反動で減収となりました。

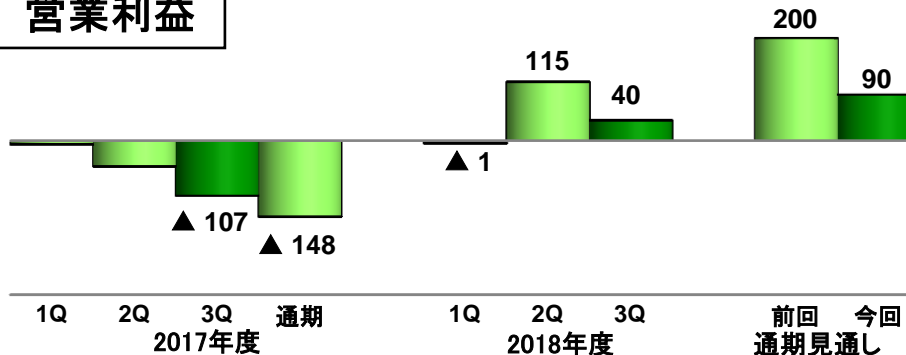
#### 売上高



##### 【営業利益】

プロセスプラントで前期に生じた採算悪化が総じて収まりつつあることや、販管費の減少により、増益となりました。

#### 営業利益



#### <通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高は、原子力を除き、減少する見通しです。

売上高・営業利益は、環境対応システム及び陸用原動機プラントの受注減による売上減少の影響や、北米のプロセスプラント案件において追加費用を織り込んだことなどにより、減収・減益となる見込みです。

### 3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高		売上高							
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度				'18年度			
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 (見通し)
ボ イ ラ	1,304	980	254	700	998	1,481	270	697	945	1,200
陸用原動機プラント	353	240	64	110	167	257	28	97	140	170
中 型 原 動 機	584	600	145	285	409	586	117	263	388	600
プロセスプラント	440	420	691	997	1,263	1,491	222	429	547	770
原 子 力	219	300	52	103	169	338	50	120	167	350

### 3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

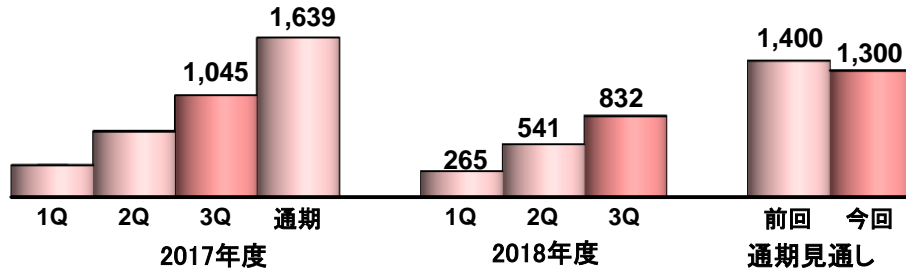
(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年11月1日公表の業績予想数値

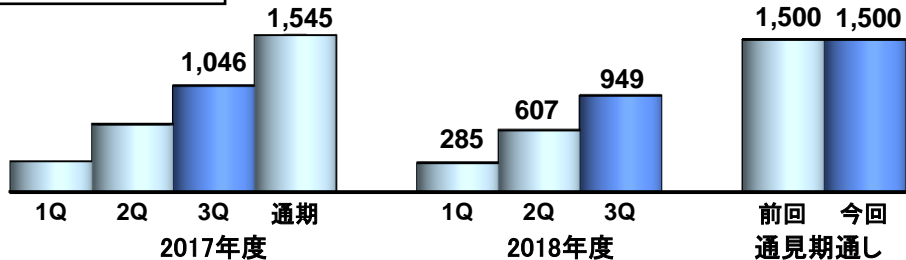
(2018年5月9日公表の当初見通しから変動ありません。)

主要事業: 橋梁・水門, シールドシステム, 交通システム, コンクリート建材,  
都市開発, F-LNG・海洋構造物

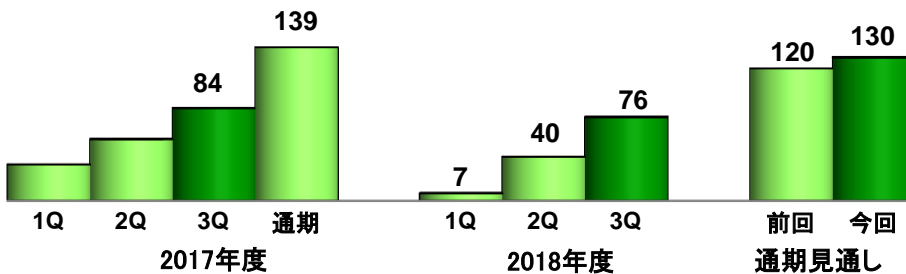
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

橋梁・水門で前期に海外の大型案件を受注した反動により、減少しました。

##### 【売上高】

橋梁・水門で増収となったものの、F-LNG・海洋構造物やシールドシステムで減収となりました。

##### 【営業利益】

橋梁・水門で増益となったものの、F-LNG・海洋構造物やシールドシステムで減益となりました。

#### <通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高は、橋梁・水門及びシールドシステムで減少となる見込みです。

売上高は、橋梁・水門で減収となるものの、交通システムなどで増収となる見通しのため、全体では変更ありません。

営業利益は、若干の増益となる見込みです。

### 3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高		売上高							
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			通期	'18年度			通期 (見通し)
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	
橋 梁 ・ 水 門	1,031	640	128	267	427	673	152	301	462	770
シールドシステム	102	180	59	115	189	244	40	97	146	200
F-LNG	▲ 7	-	24	91	103	112	9	14	15	15
都 市 開 発	162	170	42	89	125	169	37	79	119	165

「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P35、P36の<参考資料>をご覧ください。



### 3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

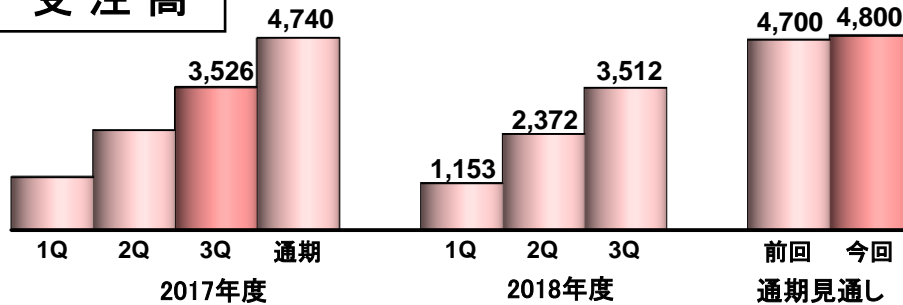
(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年11月1日公表の業績予想数値

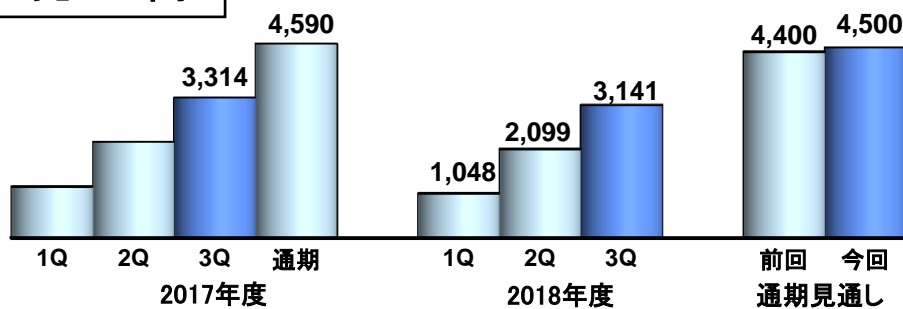
主要事業: 物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機,  
回転機械, 農機・小型原動機

(2018年5月9日公表の当初見通しから変動ありません。)

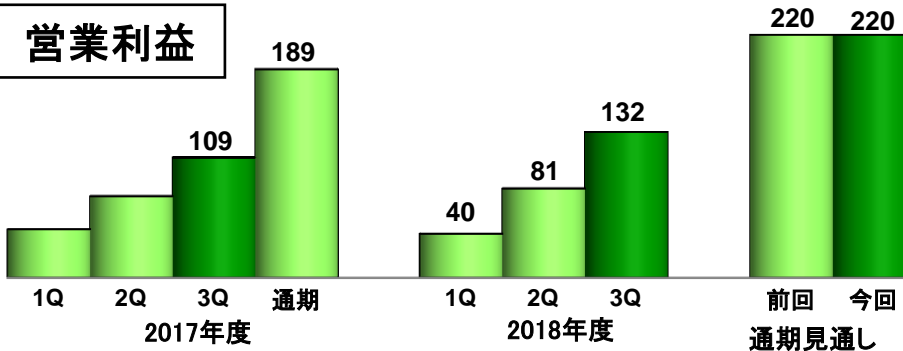
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

##### 【受注高】

前期の報告期間統一の影響により減少しましたが、この影響を除くと、運搬機械や物流・産業システム、車両過給機などで実質的に増加しました。

##### 【売上高】

前期の報告期間統一の影響により減収となりましたが、この影響を除くと、熱・表面処理や車両過給機などで実質的に増収となりました。

#### <車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	3Q累計	通期
2017年度	597	790
2018年度	514	720

※2017年度の値には、報告期間統一の影響92万台を含んでいます。

##### 【営業利益】

前期の報告期間統一の影響はあるものの、上記の増収の影響や、熱表面処理、パーキングなどの採算改善により、増益となりました。

#### <通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高・売上高は、パーキングや熱・表面処理などで増加・増収となる見込みです。

営業利益は変更ありません。

### 3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高		売上高							
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度			通期	'18年度			
			1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計	通期 (見通し)
運搬機械	252	390	32	105	178	283	50	79	137	250
パーキング	513	520	78	171	289	428	77	179	294	500
熱・表面処理	503	440	132	230	326	438	111	210	311	420
車両過給機	2,201	1,960	691	1,179	1,664	2,205	516	993	1,477	1,950
回転機械	481	515	82	188	298	435	106	215	327	500

「車両過給機」の詳細は、P34の<参考資料>をご覧ください。

### 3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

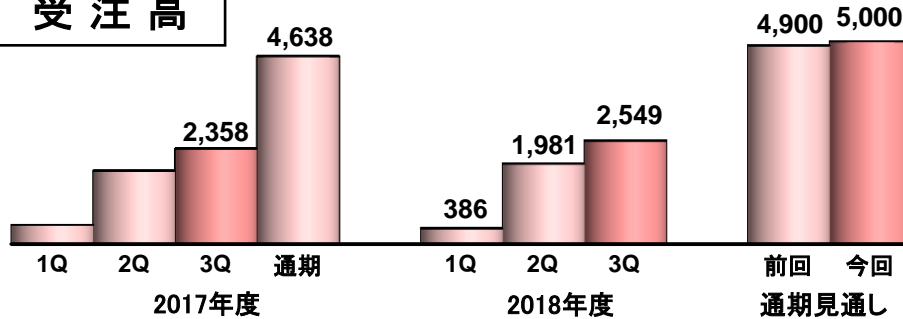
(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年11月1日公表の業績予想数値

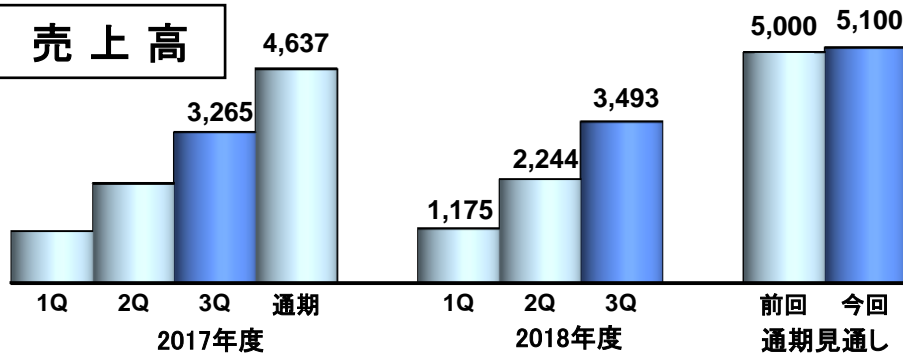
主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

(2018年5月9日公表の当初見通しから変動ありません。)

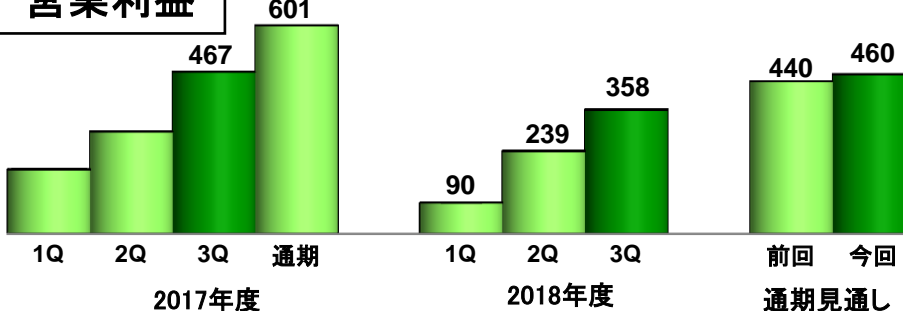
#### 受注高



#### 売上高



#### 営業利益



#### <対前年同期 増減内訳>

【受注高】  
防衛省向け航空エンジンで増加しました。

【売上高】  
民間向け航空エンジンで増収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

販売年度	3Q累計	通期
2017年度	983	1,206
2018年度	1,183	1,700

【営業利益】  
民間向け航空エンジンにおいて、不具合対応費用の負担は減少したものの、新型のPW1100Gエンジンの販売増加による影響などにより、減益となりました。

#### <通期見通し 対前回見通し 増減内訳>

受注高は、ロケットシステム・宇宙利用で増加する見込みです。売上高・営業利益は、民間向け航空エンジンで、PW1100Gエンジンのコストダウンの進捗遅れはあるものの、為替の好転の反映により、増収・増益となる見込みです。

### 3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高		売上高							
	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'17年度				'18年度			
			1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	3,191	3,240	697	1,413	2,166	2,810	731	1,525	2,432	3,350

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P33の<参考資料>をご覧ください。

## <参考資料>

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第3四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

## エルバ天然ガス液化設備



完成予想図



2018年12月末現在

### <進捗状況>

2018年12月末現在で、No.2～10液化モジュール (MMLS) 据付工事と、BOP機械・電計工事を進行中。進捗は設計:100%, 調達:97.5%, 据付:84.0%, 試運転:37.2%, プロジェクト全体:84.4%。

### <主要工程>

- 2016年3月: 契約締結
- 2016年11月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会) の建設許可承認 (仮設工事着工承認)
- 2017年2月: No.1トレイン液化モジュール (MMLS) 現着開始
- 2018年度第4四半期末: No.1トレイン, BOP引き渡し (液化運転開始)
- 2019年中: プラント全体引き渡し

### <プロジェクト概要>

- ・契約内容: エルバ島 天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国ジョージア州 チャタム郡 サバンナ エルバ島
- ・担当範囲: 年産約250万トンの液化設備の設計 (液化モジュールはお客さま支給), 建設, 試運転

**MMLS:** Movable Modular Liquefaction System  
 液化トレインはプラント全体で10トレインあり, 1トレインは79モジュールで構成

## ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2018年12月末現在

### <進捗状況>

2018年12月末現在, #1ボイラ 試運転開始, #2ボイラ 耐圧部, 配管, 集塵機を据付中。ボイラ部分の進捗は設計:約99%, 調達:約99%, 据付:約95%, 試運転:約65%, プロジェクト全体:約97%。

### <主要工程>

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 2014年 8月: 契約締結     | 2018年10月: 火入れ(#1)    |
| 2017年 1月: 立柱(#1)   | 2019年 4月: 火入れ(#2)    |
| 2017年 7月: 立柱(#2)   | 2019年 6月: 商業運転開始(#1) |
| 2018年 4月: 水圧試験(#1) | 2019年12月: 商業運転開始(#2) |
| 2018年11月: 水圧試験(#2) |                      |

### <プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ (1000MW×2基) の設計・調達・建設及び試運転



## 重油・原油焚ボイラの木質バイオマス燃料変更工事を受注

IHI及びグループ会社であるIHI運搬機械は、相生バイオエナジー株式会社(以下、相生バイオエナジー)から、関西電力株式会社相生発電所2号機の木質バイオマス燃料変更工事を受注しました。本件は、相生バイオエナジーが推進する木質バイオマス発電事業向けの工事で、営業運転開始は2023年1月の予定です。

IHIグループは、今後もバイオマス燃焼技術の高度化によるCO2排出削減に注力する他、発電設備のさらなる高効率化・CO2回収技術の開発などを含む、資源・エネルギー・環境事業領域における積極的な事業展開を通じて、地球環境及びエネルギー問題に取り組んでまいります。



<相生発電所>

## 廃棄物を活用した固体バイオマス燃料事業を本格化

IHIは、パームヤシ空果房(EFB: Empty Fruit Bunch)由来の固体バイオマス燃料(EFBペレット)の製造・販売・輸出事業を本格展開するため、マレーシアにIHI SOLID BIOMASS MALAYSIA SDN.BHD.を設立しました。

パーム油の搾油過程で大量に発生するEFBは腐敗しやすく、水分・灰分・塩分も多いため、その大部分は未利用なままで廃棄され、土壌汚染やメタンガス発生の原因になっています。IHIは、EFBを固体バイオマス燃料として有効利用するため、高品質な低灰化EFBペレットに変換・量産する手法を確立しました。

IHIグループは、マレーシアの主要産業のひとつであるパーム産業のサステナビリティ(持続可能性)を高めることを目指すと共に、日本を中心に需要の大きな拡大が見込まれる固体バイオマス燃料の安定供給に貢献してまいります。



<EFBペレットの試作品>

## 航空・宇宙・防衛事業を担う昭島新事務所棟と鶴ヶ島工場の拠点整備

IHIは、1月17日、航空・宇宙・防衛事業領域の昭島事務所（東京都昭島市）に隣接する土地に建設を進めてきた新事務所棟（以下、新棟）の竣工式を行ないました。今後、移転作業を開始し、2月25日より順次業務を開始します。新棟には事業フェーズの変化に応じて柔軟に変更が可能なレイアウトを採用することで、部門間の連携強化による、技術開発やエンジン設計などの迅速化を図ります。

今回竣工した新棟に加え、現在IHIは、航空エンジン整備需要の拡大に対応するため、2019年内の稼働を目指し、埼玉県鶴ヶ島市に新たな民間航空エンジン向け整備工場の建設を進めています。これらの拠点整備を通して、お客さまのニーズに対する迅速な対応や、生産性向上を実現することで、今後とも航空・宇宙・防衛事業の拡大と国際競争力の向上を図ってまいります。



<昭島新事務所棟>



(©JAXA)

## イプシロンロケット4号機の打ち上げについて

IHIのグループ会社であるIHIエアロスペースが機体システムの開発・製造を担当した、宇宙航空研究開発機構（JAXA）のイプシロンロケット4号機が1月18日に打ち上げられ、革新的衛星技術実証プログラムとして選定された、小型実証衛星1号機をはじめとする7基の人工衛星を正常に分離したことが確認されました。

イプシロンロケット試験機から4機連続の成功は、IHIグループが取り組んできたロケットシステム関連の技術開発の成果です。また、複数衛星の同時打ち上げ能力により、今後もさらに多くの打ち上げ需要に対応できると考えております。

IHIグループは、今後ともロケットシステム関連の技術開発とその研鑽に励み、日本の宇宙開発事業の発展に尽力してまいります。



## (1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績										見通し		
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度			'18年度				
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q		2Q累計	3Q累計
売上高	1,698	2,260	2,670	2,991	2,915	697	1,413	2,166	2,810	731	1,525	2,432	3,350

## (2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)										主要搭載機
	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18/3Q	
V2500	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,508	7,664	エアバス A319/320/321
GE90	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,617	2,693	ボーイング B777
CF34	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,085	5,279	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx			118	259	468	751	1,035	1,295	1,542	1,748	ボーイング B787/B747-8
PW1100G							16	148	398	904	エアバス A320Neo
Passport20									13	58	ボンバルディア社 Global7500
合計	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	17,163	18,346	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

## ＜地域別連結売上高推移＞

(億円)

	実績													見通し
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度				'18年度				
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
日 本	339	353	375	346	389	101	196	296	398	107	216	333	390	
ア ジ ア	248	298	275	216	158	28	57	87	117	26	54	123	150	
中 国	181	234	243	249	485	215	383	533	719	175	344	483	690	
北 米	13	16	18	24	33	7	19	49	84	28	55	86	120	
中 南 米	0	0	7	34	61	11	28	51	74	21	42	58	80	
欧 州	432	602	756	743	617	327	492	647	811	156	279	390	520	
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	1,216	1,507	1,677	1,616	1,746	691	1,179	1,664	2,205	516	993	1,477	1,950	

## (1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績												見通し
	'12	'13	'14	'15	'16	'17年度				'18年度			
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期
賃貸収入	92	91	93	101	93	23	46	69	92	23	46	70	93

## (2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'18年度3Q	70	28	18	22

# 豊洲1~3丁目地区 開発マップ

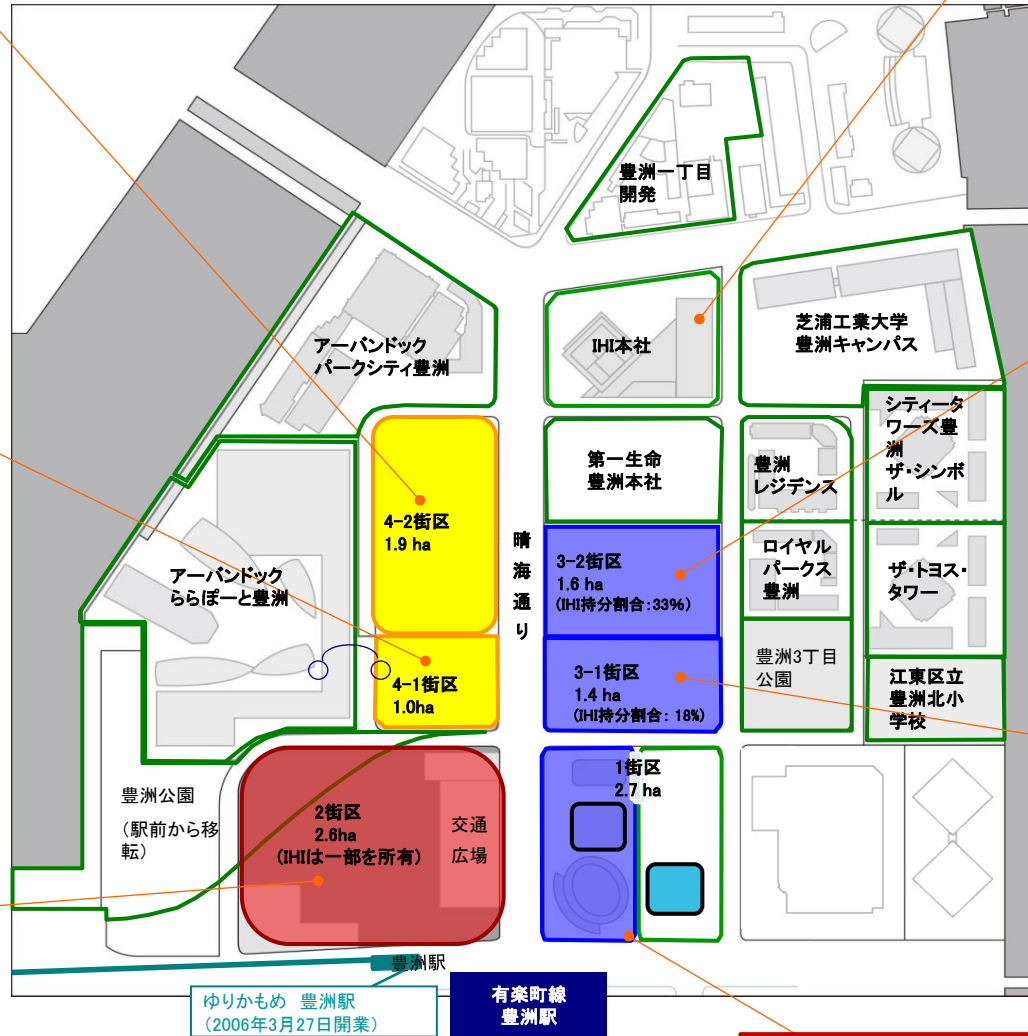
**幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場**  
敷地面積：19,492㎡  
2010年3月～2011年2月竣工



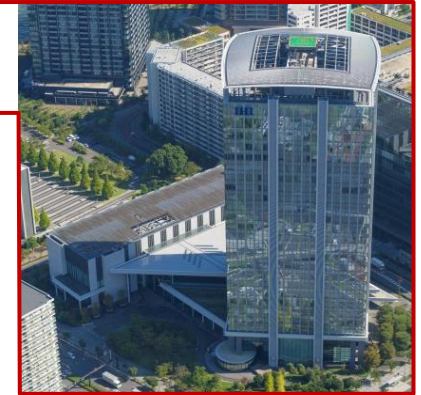
**アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)**  
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡  
2006年10月開業



**複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)**  
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡  
2020年4月竣工予定



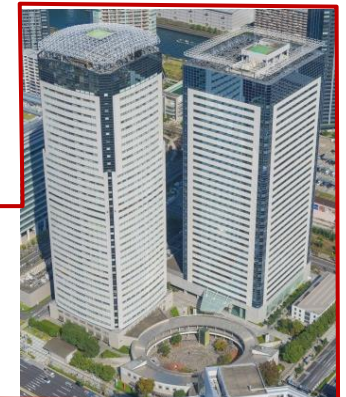
**豊洲IHIビル**  
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡  
2006年2月竣工



**豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))**  
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡  
2014年7月竣工



**豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)**  
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡  
2010年8月竣工



**豊洲センタービル**  
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡  
1992年10月竣工

**豊洲センタービルアネックス**  
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡  
2006年8月竣工

シビックセンター棟：2015年9月開業  
消防署棟：2016年6月竣工

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

IHI所有地	約5ha
--------	------

# IHI

Realize your dreams

## ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。